

県中教育

編集・発行
福島県教育庁県中教育事務所
発行責任者 水野 達雄
編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校校長協議会

随想



「教職員へエールを」

県中教育事務所長 水野 達雄

域内の子どもたちは、様々な分野ですばらしい活躍を見せており、本県の底力を全国、いや全世界に発信してくれています。これらは、教職員の皆様が、毎日、熱意を持って学習指導や生活指導、部活動に取り組んでいただいている成果であり、心より感謝申し上げます。

さて、五月の連休明けから、所長訪問をさせていただいております。

所長訪問で私が一番楽しみにしていることは、先生と子どもたちとの真剣な学びのキャッチボールを見ることです。授業の中で、先生から投げられた知的好奇心をかき立てる「発問」という名のボールが、子どもたちの間で「意見」という名のボールに変わり、子どもから子どもへとつながり、練り上げられ、教師の元へ戻される。そして、板書によって明示化される。その途中途中で、驚きや納得、賞賛のつぶやきが教室内に広がる。このような、教師と子どもたち

とのキャッチボールの姿を見ると、つい時が経つのを忘れ、見入ってしまいます。どの学級でも、じっくり授業を見たいのですが、限られた訪問時間の中ではそれがかなわず、大変恐縮しています。

また、所長訪問には、他にも大切な目的があります。それは、教職員の皆様に、不祥事根絶のための「教育長メッセージ」をお伝えすることです。休み時間という、次の授業の準備をしたり、子ども達からの質問に答えたり、相談に乗ったりする、教師にとって大変貴重な時間に、職員室等に集まっていたらいておられますことには、大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

本県の教職員の多くの皆様は、教師や学校職員であることに自覚と誇りを持ちながら、毎日のご自身の仕事に打ち込んでいます。しかし、不祥事が起きるたびに、誰よりも一番心を痛め、防ぐことをできなかった我が身を責めているのはそんな教職員

の皆様です。「教育長メッセージ」をお伝えすることを通して、日頃の先生方のご努力に感謝を伝えたい、そんな思いで訪問させていただいております。

不祥事根絶の方策により、日々子どもたちのために職責を果たそうと懸命にご尽力されている皆様が萎縮してしまうことは決してあってはならないことです。



どうか皆様、ご自分の仕事に自信と誇りを持ち、堂々と胸を張って取り組んでください。

校長先生
教頭先生
教科指導の先生
保健の先生
事務の先生
給食の先生
みんな、
みんな！

夢を実現した親友

小野町教育委員会

教育長 西牧 裕司



「長年の夢がやっと実現できるようになったよ。」かかってきた一本の電話。中学校時代に出会い、高校では陸上競技を通して競い合い、励まされた親友からの嬉しい知らせだった。大学でも陸上競技の中で厳しいとされる四百メートル走で活躍。

卒業後は大学に残り、後輩の指導に携わり教授を経て退官した。彼の学生時代からの夢と希望は、海外での陸上指導であり、退官後は英会話スクールに通い、日々のトレーニングを欠かさず努力すること三年。やっと夢の実現にこぎつけ、ジャイカの一員に登録され、派遣先が「スリランカ」に決定した旨の連絡が届いたのは平成二十六年四月だった。諸々の手続きや研修を修了し、七月二日に日本を発った。目的地に到着してからは、パソコンで情報交換をした。送られてきた写真はスリランカの氣候風土、生活習慣であり、裸足やサンダル姿で指導を受けている子どもたちの姿であった。また、グラウンドは雑草が多く運動用具等もお粗末で、予想していた以上に厳しい環境の中では初歩からの体育指導が必要であり、陸上の指導に至るまでは大変な様子に見えた。唯一の楽しみは、その日の疲れを忘れさせてくれる夕食時に飲む冷えたビールだったそうである。後半に

届くメールの写真は、指導を受けている生き生きとした笑顔いっぱいの子どもの姿が多くなった。

派遣終了間近のメールが平成二十七年三月にあり、現地での送別会や報告会を終えて、四月二日に無事帰国した。直ぐに会う時間が取れなかったが、二月に急逝した先輩の墓参りに一緒に行く事になり、十か月ぶりに会うことができた。以前にも増し日焼けした笑顔と、夢を見事に実現した満足感漂う彼の表情は、私にはとても眩しく輝いて見えた。「お疲れ様」と敬意を表し、彼の手を強く握りしめた。誰でも夢や希望を持ち、その達成に向け努力する。途中で挫折し諦めてしまうこともある。しかし、諦めることなく還暦を過ぎてでもなお夢の実現に努力し続けた彼の情熱と挑戦には頭が下がる思いである。

今、夢や希望を持ち、学習やスポーツで一生懸命頑張っている子どもたちが大勢いる。夢の実現に向け、決して諦めることなく困難や試練を乗り越え、努力を続けていってほしいと思う。そして、私の親友のように眩しいほどの笑顔と満足感、達成感を是非味わってもらいたいと願っている。

子どもの読書活動を推進する取り組みについて
平成二十七年年度

子どもの読書活動優秀実践校
文部科学大臣表彰を受賞して
福島県郡山市立赤木小学校

本校の朝は、清々しい空気と本のおいにも包まれ、全校生が本を開き、静かに本の世界にひたります。「読書力、学び力をもち、図書館を使いこなし、豊かな知性と心を持つ赤木っ子」を育てる学校図書館を目指して、子ども、学校、地域が、力を合わせて読書活動を推進しています。主な活動について紹介します。



【山猫軒の様子】

「山猫軒」や「学年スタッフのいちおし本」コーナーの設置を行っています。昼の放送「あかぎの森ラジオ」では、目標読書量五十冊を達成した友達の紹介や、ビンゴ、パズル等、月ごとの図書館イベントの案内も行っていきます。図書

館にあまり足を運ばない人に話を聞いて活動に取り入れる等、「本の楽しさを知ってほしい」という願いを持って活動しています。読み聞かせは、一年生にも喜んでもらえるように何度も練習してから行い、優しく声をかけると安心して聞いてくれることを実感しています。こうした図書委員の主体的な取り組みが、図書館への興味を高め、様々な本への関心を増しています。

二つ目は、「読み聞かせ」を取り入れた読書活動の推進です。外部ボランティア団体による読み聞かせでは、年間を通して休み時間に行うほかに、国語の授業での参加協力を得ることで、子どもたちの意欲も増し、表現力も育っています。また、平成二十三年度より三年間、絵

本作家の工藤ノリコさんと交流し、読み聞かせやお話づくり、挿し絵を描くといった活動を行いました。子どもたちが多くの本と出合う機会となり、読書量が増えるとともに、読書の幅が広がりました。

三つ目は、図書館を「学習・情報センター」として機能させるための環境整備です。「年間利用サポート表」や「活用図書リスト」の作成、国語科教科書

付録「この本、読もう」コーナーの設置、「読書感想文チャートシート」の活用、郷土資料の収集等を行い、各教科における図書館を活用した調べ学習の充実を図っています。子どもたちにとつて、ちよつと難しいと感じていたものが、身近になったり、できた喜びにつながったりと、発展的な学習や調べ学習によりよく取り組めるようになっていきます。

学校図書館「あかぎの森」に、子どもたちの笑顔があふれ、豊かな知性と心を持つ赤木っ子が育つことを願い、今後も様々な読書活動を推進していきたいと考えています。

全国大会三冠達成！

先輩からの

伝統を受け継いで

福島県立

郡山商業高等学校珠算部

に入学してから学ぶビジネス計算を攻略しないと勝てない全商スピードを極限まで出し切らないと勝てない全経、そしてスピードだけでなく正確性が重視される全日本。特に全日本は、間違えた前までしか点数がもらえない種目があります。つまり、どんなに多く解こうとも一問目で間違えると零点となるのです。このように、各大会は内容が異なるため、強豪校が全商は福岡県、全経は鹿児島県、全日本は長崎県と九州の各県に散らばっています。そこで、四年ほど前から九州地方への遠征を行い、強豪校と一緒に練習し、何が違うのかを肌で感じてきました。

遠征先の顧問の先生は、電卓の打ち方、解き方など包み隠さず教えてくださり、多くのことを学んできました。その学んだことを練習に取り入れ、改善するなど試行錯誤を繰り返しました。

何度か遠征しているうちに生徒たちから「全国大会三冠を狙いましよう！」と頼もしい言葉が聞こえるようになりました。遠征するたびに他校との差が縮まり、自信が持てるようになったのです。自信がついて目標が決まった時の高校生のパワーは凄

いもので、朝から晩まで練習に

取り組みました。臆病になる生徒もいましたが、そのぐらいギリギリのところまで自分を追い込んで練習しました。そして、三年前、個人種目で念願の全国大会優勝を果たしたのです。一度日本一になったことをきっかけに生徒の意識はさらに高くなり、全国大会でよい結果が出せるようになりました。そして、

昨年度、悲願でもあった全国大会三冠を達成できたのです。この偉業は、現在の生徒はもちろんですが、先輩の存在が大きかったと思います。先輩の中には、結果を出せず悔しい思いをした生徒がたくさんいました。しかし、先輩が「三冠取れる！」と思わなかったら、絶対に達成できなかったことと思います。

これからも、先輩への感謝の気持ちを忘れないで練習に取り組んでいきます。そして、今年度も三冠目指して頑張ります！



初任者紹介

新採用三か月を過ぎても

三か月を振り返って

浅川町立浅川幼稚園



教諭
秋山 結香

私が子どもの頃からの夢だった幼稚園教諭として働き始めてあっとい間に三か月が過ぎました。家庭訪問や研修、職員会議、そして行事等初めての事ばかりで緊張しました。しかし、先生方の丁寧な指導と子どもたちの可愛い笑顔により、充実した毎日を過ごすことができました。着任した当初は、夢にみた幼稚園教諭生活が始まるという、期待と不安が入り混じる中スタートした保育でした。まだまだ至らない点があり、反省の日々ですが、先輩の先生方の後ろ姿を追いかけて、いつか追いつき、五年後十年後に先輩ができた時今私が先輩から教えていただいているように後輩を育てられるような存在になりたいと思います。



新採用三か月を過ぎて

須賀川市立第二小学校



教諭
星 来美

小学校教員として働き始めてから、あっとい間に三か月が過ぎました。先輩の先生方や子どもたちに助けてもらいながら毎日充実した日々を過ごしています。出会ってまだ三か月しか経っていませんが、子どもたちの成長を日々感じます。そんな時、教師という仕事を選んでよかったな、と改めて思うことができました。しかし、それと同時に、責任の重さや、自分の未熟さも強く感じるようになりました。子どもたちのために、今の自分

が出来ることは何かを常に考え、全力で目の前の子どもたちと向き合っていきたいと思っています。私は「誰かの役に立つ生き方をしたい」とそんな思いから小学校教員を目指しました。その気持ち忘れずに、今年出会うことのできた子どもたち、そして、これから出会う子どもたちのために、私自身も成長し続けていきたいと思っています。

ここから始まる

小野町立小野中学校



教諭
遠藤 香子

平成二十七年四月一日。第二の人生の始まりである。不安と期待でいっぱいだったあの日から早三か月。教師としての自分の力不足を感じる毎日だ。目の前のことで精一杯で、自分が本当にやりたいこと、伝えたいことが、忙しさに埋もれる。そんな自分を責め、諦めそうになることがあるのも正直なところである。しかし、何事にも一生懸命な生徒達や、思いやりに溢れる先生方を見てみると、逃げ出したくなっている自分が笑えてくる。こんなに充実した日々はないのではないかと。

生徒のため、福島県の教育のためにやりたいことは尽きない。今の私には何もできないかもしれないが、第二の人生が始まったばかりの私には可能性しかない。そうだ、ここから始まるのだ。人は、一生涯学習し、成長し続ける。そんな人生の素晴らしさを伝えるために、私は今日も教壇に立つ。

三か月を振り返って

福島県立須賀川高等学校



教諭
町野 瑛

夢だった高校教員として須賀川高校に赴任して、三か月が経とうとしています。授業、部活動、学校行事と本当にあつという間に過ぎました。慌ただしい毎日に、一杯一杯になってしまふこともありましたが、しかし、先生方に助けられ、同期に励まされ、恵まれた環境で仕事をさせていただいています。本校の生徒と過ごす毎日は何

もかもが新鮮で、学ぶことばかりです。どんな言葉で、どんな伝え方で、どんな接し方で教えるれば生徒の力を引き出せるだろうか。頭を悩ます毎日ですが、生徒の成長と笑顔が私の原動力となっています。いつも高校生の秘めている力に感心させられています。生徒たちが充実した高校生活を過ごし、この学校を卒業してよかったですと自信を持って社会に羽ばたいてほしいです。一人でも多くの生徒の力を、また一つことのできる教師を目指します。

今とこれからを大切に

郡山市立喜久田中学校



養護教諭
渡部実和子

「なすことによつて学んで参ります。」着任当初、緊張しながらこうあいさついたしました。三か月があつという間に過ぎ、まさに、なすことによつて学ぶ毎日を実感しております。養護教諭として働く日々はまだ余裕はありませんが、周囲の先生方に支えられ、この職の魅力

をあらためて感じています。一方で日々子どもたちの心身の健康の変化に直に触れて、個に応じた対応の難しさと大切さを痛感しています。どんな訴えにも受容的に接し、子どもの言葉しぐさ、表情などをしっかりと把握しながら対応するなど、子どもたち一人ひとりに寄り添える精進していきたいと思っています。今この時の気持ちを忘れず、子どもたちを安心させる、いつも笑顔の自分であるために、自身の健康管理にも気をつけ、全力で子どもたちを支えていきたいと思っています。

縦横社会教育課
社会教育担当より

「子どもの夢をはぐくむ読書活動推進事業・読書活動支援者育成事業」

読書活動を推進するボランティアの拡大及び資質向上をめざし、「人材育成基礎研修(研修A)」を六月十二日(金)に開催いたしました。



元県立高等学校司書の長崎キヨ子さんによる「魅力ある学校図書づくり」とボランティアについて、矢部みゆきさんによる「おはなしの魅力を伝える読み聞かせの技術」をテーマとした講義・演習、そして最後にグループによる情報交換を行いました。また、「公立図書館の現状と課題」についての研究報告並びに学校司書を対象とした学校図書視察も実施いたしました。

受講された皆様からは、「子どもたちが入りやすい図書室の環境をつくりたい」、「読み聞かせの技術はもとより、ボランティアとして何を求められて

「第一回地域家庭教育推進

県中ブロック会議」

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するため各教育事務所が主体となり、家庭教育の推進や地域教育力の向上に向けた協議を年二回行います。

県中地区では六月二十五日(木)に学識経験者、郡市PTA連合会、企業、子どもと関わる団体、行政関係者の代表十五名が推進委員となり第一回目の会議を行いました。

会議の中では、陸奥テックコンサルタント株式会社代表取締役伊藤清郷様から日頃より取り組まれている企業の家庭教育推進に関する事例の紹介をいただきました。

また、郡山警察署生活安全課専門少年警察補導員安齊かおり様から、インターネットやスマートフォン使用に潜む危険性について具体的な講話がありました。

それら二つの話を受け、協議では、家庭教育に取り組み重要性やメディア活用の効果と弊害について出席者の活発な意見交換がなされました。本会議の内容を受け、それぞれの立場から推進していく方向性が見え、有意義な会となりました。



学校教育課管理担当より

「不祥事根絶」に向けて

県中教育事務所では、域内全ての小・中・高・特別支援学校を対象に所長訪問を実施し、教職員の皆様に直接不祥事根絶に向けた取組について呼びかけているところであり、今年度に入り、域内において教師の不適切な言動等があり、未だ不祥事根絶に至らない状況が続いております。

各学校では、今年度新たに「不祥事根絶のための行動計画」を立て、その計画に基づき対応策を講じていることと思います。

これらの行動計画には、服務倫理委員会の提案を輪番で行ったり、学期毎に養護教諭による心の健康アンケートを実施したりするなど、学校や地域の実態に応じた「いつ、だれが、何を」の「か」を明確にしたものが多く見受けられました。教職員一人一人がこの行動計画を意識し、学校として組織的な取組にしていくことが大切であり、職員間のコミュニケーションを密にし、同僚性を高めていく実践が求められています。

県中教育事務所といたしましても、市町村教育委員会や学校との関係を密にしながら、各学校が充実した教育活動を展開できるよう、各種訪問や研修会等の機会をととして支援して参ります。

学校教育課指導担当より

「授業づくり」で

学力向上を

県中教育事務所では、今年度「授業づくり」を通して、学力向上を目指すことを推進しております。

その一つのツールとして「授業改善のための定着確認シート」があります。五月十二日に行われた「域内学力向上担当者等研修会」においても、実際に学力向上担当の先生方に定着確認シートの活用の一例を体験していただき、各校での活用の方を考慮していただいたところです。

また、今年度から「定着確認シート実践協力校」が指定されました。県中域内では、田村市立大越小学校・大越中学校の二校です。定着確認シートを活用して授業づくり(授業改善)を実践し、それを県内の先生方に提案することを目的にした指定校です。秋が深まる頃には、二校ともに授業の実践を公開する予定です。ぜひ、参考にしていただきたいと思います。さらに、今年度も「学力向上通信」



「つなぐ」を発行します。その中でも「授業づくり」についての情報などをお伝えしていきます。県中教育事務所のホームページからもご覧いただけますので、ご一読いただき、ご意見、ご質問などもお寄せください。

ふくしま道徳教育資料集
ごついで

福島県教育委員会では、ふくしま道徳教育資料集第一集・第二集に続き、第三集と全3集を作成し、先日各学校に送付いたしました。今後、学校教育法施行規則の一部改正に伴う道徳の「内容」の改訂に対応するため、資料の配列を、改訂の内容に即したものに修正する予定です。「いのち」をテーマに編集された「第一集 生きぬく・いのち」、そして、家族愛や友情等を中心とした「第二集 敬愛・つながる思い」に続き、「第三集 郷土愛・ふくしまの未来へ」も、震災や放射能被害を経験した福島の子どもたちだからこそ忘れさせたくない、大切にしてほしい内容、そして、故郷ふくしまを素材とした内容の読み物資料教材となっています。

これらの資料集をご覧いただき、子どもたちが道徳的価値を深くとらえ、感動にあふれる多くの授業実践が展開されますよう、各学校での活用をお願いいたします。

